

令和2年度 地域活性化総合特別区域評価書

作成主体の名称：豊田市

1 地域活性化総合特別区域の名称

次世代エネルギー・モビリティ創造特区

2 総合特区計画の状況

① 総合特区計画の概要

本市の次世代エネルギー・社会システム実証地域として取り組んでいるエネルギー分野での取組、自動車産業及び関連技術の集積やITS実証実験モデル都市等モビリティでの取組の素地を活かして、新たな環境・エネルギー技術と次世代モビリティの技術を創出し、低炭素な都市環境を構築していく。

このプロセスにおいて、関連企業の成長と産業構造の転換を図り、市域経済の活性化と雇用の創出を実現する。

あわせて、新たな技術を爆発的に市民生活に普及させることにより、生活環境の安心・安全・快適化を図り、市民の暮らしの質の向上を実現する。

本特区において創出する技術は国際標準化を目指しており、その普及モデルとあわせて、国内外に広く横展開することにより、我が国の成長戦略の一翼を担っていく。

また、平成23年3月の東日本大震災以降の社会情勢に鑑み、エネルギー・モビリティ分野における開発実証は可能な限り前倒し、被災地復興で展開が求められるものを迅速に横展開していく。

② 総合特区計画の目指す目標

本市の強みであるエネルギー・モビリティを核とした技術開発、市域での普及、国内外への横展開を三位一体で展開することにより、低炭素な都市環境を構築し、市域経済の活性化と市民生活の質の向上を図るとともに、被災地等を含め広く国内外へ貢献する。

③ 総合特区の指定時期及び総合特区計画の認定時期

平成23年12月22日指定

平成24年3月9日認定（令和3年3月26日最終認定）

④ 前年度の評価結果

グリーン・イノベーション分野 4.6点

- ・家庭用のスマートホーム、産業用のサステナブルプラント、経済的波及、市民満足度と、広く全般的な波及をとらえる経済指標に関して、目標値を達成しており、極めて順調に進捗している。
- ・自動車産業がCASEと呼ばれる大きな転換点にある中、PHVやEVなどへの転換の道筋を見極め、SDGs未来都市にも選定されたことを契機に、進捗評価に記載されてい

るように MaaS など今後の取り組みに対しても期待する。

- ・財政支援の活用実績にも示される、COI 事業の、超高齢者社会に対応した、高齢者が元気になるモビリティ社会による健康寿命増進は有意義であり、各種実証事業の推進、社会実装に期待したい
- ・代替指標（A-2-1）の実績値が減少傾向にあることについて要因分析が必要ではないか

⑤ 前年度の評価結果を踏まえた取組状況等

ほとんどの評価指標において目標値を上回る実績となった。また、令和元年度まで減少傾向にあった「次世代自動車購入補助件数（PHV等）」の実績値についても、外部給電機能のPR活動等で環境に優しく災害にも強いクルマとして周知した影響もあり、令和2年度の実績は前年度と比較し回復傾向となっている。

引き続き次世代エネルギー、次世代自動車関連の取組をはじめとした低炭素社会に向けた取組を官民が一丸となって推進していく。

⑥ 本年度の評価に際して考慮すべき事項

令和元年度評価より、評価指標（2）については、「新製品・新技術等開発の取組件数」を、評価指標（3）については、低炭素社会モデル地区「とよたエコフルタウン」（以下、「とよたエコフルタウン（※1）」という。）の来場者数及びエコファミリー認定世帯（※2）数を参考指標として設定し、評価書本体及び別紙1に記載した。

（※1）とよたエコフルタウン：無理なく、無駄なく、快適に続けられる低炭素社会の実現に向けた「市民」「地域」「企業」の取組みを、わかりやすく伝えるための拠点

（※2）エコファミリー認定世帯：環境配慮先行動に取り組むことを宣誓した世帯

3 目標に向けた取組の進捗に関する評価（別紙1）

① 評価指標

（1）「低炭素な都市環境の構築」（定性的な目標A）に対する評価指標及び数値目標

（A-1）評価指標

- ・再生可能エネルギー（太陽光、小水力等）の地産地消率の向上

（A-1-1）数値目標

- ・スマートハウスの導入数

[当該年度目標値：300件、当該年度実績値：875件、進捗度：292%、寄与度：50%]

（A-1-2）数値目標

- ・サステナブルプラント整備数

[当該年度目標値：14件、当該年度実績値：22件、進捗度：157%、寄与度：50%]

- * ここでいうサステナブルプラントとは、創・蓄・省エネ機器やエネルギーマネジメントシステムを設置し、新たに立地する企業（豊田市企業誘致推進条例、豊田市企業立地奨励条例、豊田市創造産業立地奨励金交付要綱、豊田市高度先端産業立地奨励金交付要綱適用分）

(A-2) 評価指標

- ・モビリティの活用によるCO2の削減（運輸部門）

(A-2-1) 数値目標

- ・CO2排出量（運輸部門〔自動車〕）《代替指標による評価》

(A-2-1) 代替指標

- ・次世代自動車購入補助件数（PHV等）※単年度実績

[当該年度目標値：219件、当該年度実績値：205件、進捗度：94%]

(2) 「市域経済の活性化」（定性的な目標B）に対する評価指標及び数値目標

(B-1) 評価指標

- ・市域経済の成長

(B-1-1) 数値目標

- ・企業誘致数（豊田市企業誘致推進条例、豊田市企業立地奨励条例、豊田市創造産業立地奨励金交付要綱、豊田市高度先端産業立地奨励金交付要綱適用分）

[当該年度目標値：30件、当該年度実績値：27件、進捗度：90%]

《参考指標》平成29年度の評価から、市域経済の成長の参考指標として、「新製品・新技術等開発の取組件数」を追加。

- ・新製品・新技術等開発の取組件数：実績0件（令和2年度）

(3) 「暮らしの質の向上」（定性的な目標C）に対する評価指標

(C-1) 評価指標

- ・市民満足度の向上

(C-1-1) 数値目標

- ・豊田市市民意識調査

豊田市を住みよいまちだと思ふ市民の割合

[当該年度目標値：80%、当該年度実績値：-%、進捗度：-%] 《定性的評価》

《参考指標》豊田市市民意識調査は隔年調査のため、令和2年度はとよたエコフルタウンの来場者数及びエコファミリー認定世帯数により評価

- ・とよたエコフルタウンの来場者数：約2万人（令和2年度）、累計336,075人（令和2年度末）

- ・エコファミリー認定世帯：約51,500世帯（令和2年度末）

② 寄与度の考え方

該当なし

③ 総合特区として実現しようとする目標（数値目標を含む）の達成に、特区で実施する各事業が連携することにより与える効果及び道筋

- ・次世代エネルギー・社会システム実証地域として本市が行ってきたエネルギー分野の取組、自動車産業及び関連技術の集積やITS実証実験モデル都市等モビリティでの取組の素地を生かし、総合特区で実施する各事業を連携・推進することにより、新たな環境・エネルギー技術と次世代モビリティの技術を創出するとともに、環境・

エネルギー分野にとどまらない超高齢社会にも対応した持続可能な社会を構築していく。このプロセスにおいて、関連企業の成長と産業の多角化を図り、雇用の創出と市域経済の活性化を実現する。

- ・実証を通じて創出された技術を社会に実装化していくことで、生活環境の安心・安全・快適化を図り、今後進展する超高齢社会に対応した先進モデルを豊田市で構築し、市民の暮らしの質を向上させていく。豊田市内の中山間地域においては、すでに超高齢社会が進展しており、実証地区で得られた成果の市内における横展開を迅速に図っていく。
- ・本特区において創出する技術は国際標準化を目指しており、その普及モデルとあわせて、国内外に広く横展開することにより、我が国の成長戦略の一翼を担っていく。

④目標達成に向けた実施スケジュール

ほとんどの評価指標において概ね目標どおり推移していることから、引き続き次世代エネルギー、次世代自動車関連の取組をはじめとした低炭素社会に向けた取組を官民が一丸となって推進していく。

4 規制の特例措置を活用した事業等の実績及び自己評価（別紙2）

①特定地域活性化事業

該当なし

※ 現状、当特区の地域活性化において必要とする規制の特例措置がないため。

②一般地域活性化事業

HEMSを介したスマートフォンによる遠隔操作（電気用品安全法）

ア 事業の概要

HEMSを介したスマートフォンによる遠隔操作のうち、エアコンのオン・オフについては、電気用品安全法の解釈が想定する「遠隔操作機構」にあらず、現行法令等に対応可能であった。また、車両の充放電の遠隔操作についても、電気事業法上、特にこれを制限する規定はなく、現行法令で対応可能であることが明らかになった。

イ 評価対象年度における規制の活用状況と目標達成への寄与

当該措置を踏まえて市販化されている。外出先からのエアコンのオン・オフをスマートフォンから行えることで、市民満足度の向上に寄与している。

③規制の特例措置の提案

（すべての提案について記載）

③-1 豊田市・尼バンドン市の包括連携協定による外国人介護人材の活用・育成（平成29年秋協議）

ア 提案の概要

当特区の政策課題「安全快適なモビリティライフの実現（高齢社会での移動モデ

ル確立)」の解決策として、当特区では、高齢者を始め、老若男女が中心、快適に活動できる行動支援の実施の一環として、民間企業、大学等と様々な技術開発を行ってきており、ロボット・AI等高等技術を用いた介護を目指している。豊田市と包括連携協定を締結しているバンドン市から外国人介護人材を受け入れ、豊田市独自の高等技術を用いた介護人材の養成を行い、当特区において創出する技術に触れ、持ち帰り、バンドン市で実施する介護に活用することで、当特区の掲げる目標に取り組むため、以下の提案を行った。

- ① 都市間の包括連携協定を締結した地方公共団体等においては、送出し期間及び受入れ機関を当該地方公共団体の協定により決めることができるようにすること。
- ② 都市間の包括連携協定を締結した地方公共団体等においては、介護福祉士国家取得取得のための実務経験を積むものに対し、4年間の在留資格を新設すること。
- ③ 実務経験ルートで介護福祉士を取得した者に対して、在留資格「介護」を付与すること。
- ④ 上記資格試験の試験時間を1.5倍に延長すること。

イ 国と地方の協議の結果

- ① 必要に応じて改めて協議
- ② 現行法令による対応を自治体が検討（引き続き協議）
- ③ 平成29年12月8日閣議決定の「新しい経済対策パッケージ」に盛り込まれており、所管省庁において検討を行っている。
- ④ ①～③が前提のため、検討不可

5 財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価

- ①財政支援：評価対象年度における事業件数0件
- ②税制支援：評価対象年度における適用件数0件
- ③金融支援（利子補給金）：評価対象年度における新規契約件数0件

6 地域独自の取組の状況及び自己評価（別紙3）

（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

豊田エコファミリー支援制度による環境機器への財政支援、豊田市版環境減税の実施など、地域独自の取組を推進している。

7 総合評価

令和2年度はほとんどの指標において概ね目標どおり推移した。

総合特区事業の推進母体である豊田市つながる社会実証推進協議会では、新エネルギーやAI・IoT等の先進技術の実証・実装による地域課題の解決を通じて、市民生活の安全・安心の向上、新産業の創出、産業の多角化、先進実証都市としての魅力向上を目的としており、豊田市、さらには国内外の持続可能な社会形成に貢献すべく取組を進めていく。

平成30年6月には内閣府からSDGs未来都市に選定され、SDGsの達成に向け、豊田市つながる社会実証推進協議会と、都市と農山村をつなぐプラットフォームである「おいでん・さんそんセンター」を2大プラットフォームに位置付け、「SDGsスタディツアー」の開催など、イノベーションの創出に資する取組を行った。

また、SDGs（持続可能な開発目標）の達成、持続可能なまちの実現に向けて、本市と共に取組等を実施していただける企業・団体等を「とよたSDGsパートナー」として、令和元年9月から募集を行っており、令和3年3月現在で253団体が登録されている。

エネルギー分野・交通分野については、令和2年12月に、藤岡南中学校の太陽光発電等のグリーン電力証書等を活用して製造するCO₂フリー水素を公用車に充填し、ライフサイクルでのCO₂ゼロに向けた取組を実施した。そのほか、令和3年3月には、山村地域において、EVバスの自動運転（運転の主体はシステム、ドライバー有）の実証を実施した。

とよたエコフルタウンについては、新型コロナウイルスの影響による「新しい生活様式」の定着に向けた「ミライのフツをつくろうプロジェクト」として、とよたエコフルタウンで3密回避の観点からインターネットを介したリモートガイドツアー（5月）や災害時を想定した在宅避難体験ガイドツアー（8月）を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響により、例年よりも来場者は少なかったものの、オンラインでのSDGs国際会議の開催や、感染症対策を実施しながらの視察受入を実施し、民間企業との連携による各種取組を国内外へPRすることができた。

今後も、社会全体の脱炭素化や先進技術の実装化に向けて引き続き支援事業を活用した事業展開を行うほか、SDGsパートナーとの連携、とよたエコフルタウンの活用等により、効果的なPRを強化していく。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		参考 (平成24～27年度)	当初(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
評価指標(A-1): スマートハウスの導入数 (累計)	目標値	300		50	100	150	200	300
	実績値	240	163	73	156	303	597	875
	寄与度(※):50(%)			146%	156%	202%	299%	292%
代替指標又は定性的評価の考え方 ※数値目標の実績に代えて代替指標又は定性的な評価を用いる場合		—						
評価指標(A-1): 再生可能エネルギー(太陽光、小水力等)の地産地消率の向上	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	次世代エネルギー・社会システム実証の成果を踏まえた面整備を通して、スマートハウスの導入拡大を図り、次世代自動車(車載蓄電池)からの逆潮流等、グリーンエネルギーの地産地消を図る。 また、豊田市再生可能エネルギーセンター(現・とよたエコライフセンター)を開設し、再生可能エネルギーの導入に関する相談窓口としているほか、とよたエコフルタウンにおいてリフォームによるスマートハウス化を提案する”リフォーム棟”を整備し周知を図っている。さらに、平成26年度にプロポーザルにて売却した市有地でスマートタウンが平成28年完成し、まちびらきが行われた。 目標達成に向けては、平成25年から、家庭用リチウムイオン蓄電池の補助金を開始し、平成26年度からは豊田市独自のスマートハウス減税(全国初)太陽光発電、HEMS、蓄電池を備えた住宅の固定資産税を3年間半減)を導入し、コスト低減による機器の導入促進を通じたスマートハウスの普及拡大へとつなげている。						
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、各年度の目標	豊田市では、創エネ機器(太陽光発電等)、蓄エネ機器(蓄電池等)、省エネ機器(HEMS等)の3つを備えた住宅をスマートハウスと定義し、新築・既築を問わず、戸数を拡大することを目標に設定している。							
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合の要因分析)	目標を大きく上回るペースで進捗している。 スマートハウス減税対象となりそうな市民へターゲットを絞った情報提供を行ったことなど、効果的なPRを進めてきた成果が着実に表れてきたものと評価できる。減税制度のPRの充実、支援制度の拡充を通じて、目標の達成を目指していく。さらに、とよたエコフルタウンのリフォーム棟の活用によるPRも引き続き実施していく。							
外部要因等特記事項								

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		参考 (平成24～27年度)	当初(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
評価指標(A-1): 再生可能エネルギー(太陽光、小水力等)の地産地消費率の向上	数値目標(A-1-2): ※持続可能なプラント 整備済数(累計)	目標値	10	2	5	8	11	14
		実績値	23	16	7	12	19	20
	寄与度(※):50(%)	進捗度(%)		350%	240%	238%	182%	157%
	代替指標又は定性的評価の考え方 ※数値目標の実績に代えて代替指標又は定性的な評価を用いる場合	—						
目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	<p>創・蓄・省エネ機器やエネルギー管理システムを設置し、新たに立地する企業に対し、豊田市独自に定めている「企業誘致推進条例」に基づくインセンティブを付与するなど支援していく。総合特区の利子補給制度を活用し、企業の設備投資を促進する。(認定計画済み)</p> <p>・創・蓄・省エネ機器やエネルギー管理システムのすべてまたは一部を設置した事業所・工場を持続可能なプラントとし、目標を設定している。</p> <p>・目標達成に向けては、持続可能なプラント化のための設備投資への利子補給制度と、持続可能なプラント化に寄与するエコアクション21の取得費用への補助金等を展開している。</p>							
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、各年度の目標	<p>目標件数については、同利子補給制度適用件数と、エコアクション21の認証取得費補助金適用件数の合計を採用している。</p> <p>豊田市企業誘致推進条例、豊田市企業立地奨励条例、豊田市創造産業立地奨励金交付要綱、豊田市高度先端産業立地奨励金交付要綱及び総合特区の利子補給制度を活用することで企業の設備投資を促進し、初年度は年間2件を目標とした。その後徐々に整備数を拡大していき、産業振興及びエネルギーの地産地消費モデルの構築を図る。</p>							
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合の要因分析)	<p>予定を上回るペースで進捗している。</p> <p>豊田市独自の支援策である企業立地奨励金や企業立地マッチング制度などについて、「愛知県産業立地セミナー2020 IN 東京」等の展示会等を通して市外へも積極的にPRを行ったほか、利子補給金の支援措置に加え、発電設備減税や中小企業向けの各種支援策を展開し、豊田市への企業誘致及び持続可能なプラント化を促進した。</p> <p>次年度も引き続き、展示会や勉強会での制度の周知を通じた件数の増加を目指していく。</p>							
外部要因等特記事項								

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

2015

2016

2017

2018

2019

2020

		当初(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
評価指標(A-2): モビリティの活用によるCO ₂ の削減 (運輸部門)	数値目標(A-2-1) 次世代自動車購入補助 件数(PHV等)※単年度 実績	目標値	218	219	219	219	219
		実績値	—	130	398	240	205
	寄与度(※):100(%)	進捗度(%)	60%	182%	110%	71%	94%
	代替指標又は定性的評価の考 え方 ※数値目標の実績に代えて代 替指標又は定性的な評価を用 いる場合	評価時点では計画書に定める運輸部門におけるCO ₂ 排出量の実績値が把握できない*ため、代替指標として市が実施する次世代自動車購入補助件数を使用し評価を行うこととする。運輸部門におけるCO ₂ 排出量の削減効果については補助実績から市内における次世代自動車の普及傾向が把握できることから、評価時点で入手可能な数値のうちCO ₂ 排出量の削減効果を測る代替指標としては最も適切である。 (*CO ₂ 排出量は電力消費量、排出係数、車種別保有台数、車種別年間平均走行距離等、当該年度の翌年度中に順次公表される各種統計資料を基に算出する必要があり、該当年度終了後概ね2年を要する)					
	目標達成の考え方及び目標達 成に向けた主な取組、関連事業	環境モデル都市アクションプラン及び低炭素社会システム実証の取組をもとに、次世代自動車の購入に対する補助だけでなく、充電設備等のインフラ整備と合わせた普及促進策を進めることにより、安全・快適なモビリティライフの構築を目指し、運輸部門でのCO ₂ 削減を図っていく。					
	各年度の目標設定の考え方や 数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、各年 度の目標	豊田市における平成27年度までの次世代自動車(EV・PHV・FCV)への補助実績をもとに、市補助の目標件数(=予算枠/毎年補助実績をもとに見直しを行っている)を当該指標の目標値として設定し、次世代自動車の普及拡大を図るとともに低炭素なモビリティライフの構築を目指す。					
進捗状況に係る自己評価(進捗 が遅れている場合の要因分析)	目標値よりやや低い実績ではあるが、概ね目標どおりに進捗している。 従来のガソリン車と比べ低炭素な交通手段である次世代自動車の普及は運輸部門におけるCO ₂ 排出量抑制に寄与するものであり、引き続き、市としては今後も外部給電機能のPR活動等により、環境に優しく災害にも強いクルマとしての周知強化に努める。						
外部要因等特記事項							

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
評価指標(B-1): 市場経済の成長	数値目標(B-1-1): 企業誘致数(企業誘致 推進条例適用分)(累 計)	目標値		6	12	18	24	30
		実績値	7	17	23	23	24	27
	寄与度(※):100(%)	進捗度(%)		283%	192%	128%	100%	90%
	代替指標又は定性的評価の考 え方 ※数値目標の実績に代えて代 替指標又は定性的な評価を用 いる場合		-					
目標達成の考え方及び目標達 成に向けた主な取組、関連事業		<p>将来にわたりものづくりの中核都市であり続けるため、「豊田市ものづくり産業振興プラン」に基づき、更なる産業集積と拠点機能の高度化を図るとともに、成長分野の企業や研究開発施設の立地誘致、市内産業の新たな投資を促進する。 当面行う取組は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京をはじめ、各地で開催される展示会等でPRを行い、企業誘致を促進する。 ・豊田市で毎年開催するビジネスフェア等でPRを行い、企業誘致を促進する。 						
各年度の目標設定の考え方や 数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、各年 度の目標		<p>平成26年度に終了した次世代エネルギー社会システム実証の成果を踏まえ、国内外へ向けたビジネス展開を契機とした企業誘致を進めることで、市域における産業振興の動きを加速させる。 目標設定としては、豊田市企業誘致推進条例、豊田市企業立地奨励条例、豊田市創造産業立地奨励金交付要綱、豊田市高度先端産業立地奨励金交付要綱を活用して立地する企業(製造業)を目標の対象とし、新たに立地する企業には、条例による奨励金を交付するほか、市としても、新たな技術開発用資金の提供(公募制の補助金)等の制度を組み合わせるなど、他市よりも好条件でビジネス展開ができる環境を整えることを目指している。 なお、平成29年度の評価から、市域経済の成長の参考指標として、「新製品・新技術等開発の取組件数」を追加。 ・新製品・新技術等開発の取組件数:実績0件(令和2年度)</p>						
進捗状況に係る自己評価(進捗 が遅れている場合の要因分析)		<p>目標値よりやや低い実績ではあるが、概ね目標どおりに進捗している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症による企業の投資計画の見直し等の影響があったものの、豊田市独自の支援策である企業立地奨励金や企業立地マッチング制度などについて、「愛知県産業立地セミナー2020 IN 東京」等の展示会等を通して市外へも積極的にPRを行った。 そのほか、開発に係る手続き事務の効率化を図るワンストップサービスや、インフラ整備に係る経費に対し補助金を交付する企業立地インフラ整備支援などの支援メニューの充実を図ることで、企業誘致の促進を図っている。平成30年度には、企業立地奨励条例の運用を開始し、企業立地に係る支援を拡充した。</p>						
外部要因等特記事項								

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
評価指標(C-1): 市民満足度の向上	数値目標(C-1-1): 豊田市民意識調査 (豊田市を住みよいまち だと思ふ市民の割合)	目標値	74	76	77	78	80
		実績値	73.3	72.3	-	74.7	-
	寄与度(※):100(%)	進捗度(%)	98%	-	-	93%	-
	代替指標又は定性的評価の考 え方 ※数値目標の実績に代えて代 替指標又は定性的な評価を用 いる場合	市民意識調査は隔年実施であるため、定性的な評価を実施。					
目標達成の考え方及び目標達 成に向けた主な取組、関連事業	総合特区事業及び第8次豊田市総合計画に掲げる各種事業を確実に推進し、とよたエコフルタウンや多様なメディアを活用した取組の「見える化」を図ることで、市民の満足度の向上及びライフスタイルの変革につなげる。 また、「WE LOVE とよた」条例の制定とそれに伴う行動計画の策定に伴い、市の魅力の共有や発信を通して、住みよいと感じる市民の意識の醸成を図る。 さらに、土地区画整理事業やスマートタウン整備支援等の住環境整備の面からの定住施策の促進によって、満足度を向上させる。						
各年度の目標設定の考え方や 数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、各年 度の目標	市民の意識は、特定事業の実施によって向上するものではなく、総合特区事業や総合計画に掲げる事業などまちづくり全般に関わる事業・施策によって向上するため、各事業の成果が浸透することで、ゆっくり向上するものとする。 また、本市の取組の市民への浸透度を把握する参考指標として、とよたエコフルタウンの来場者数及びエコファミリー認定世帯数は、以下の通りである。 (参考指標) ・とよたエコフルタウンの来場者数:約2万人(令和2年度)、累計336,075人(令和2年度末) ・エコファミリー認定世帯:51,500世帯(令和2年度末)						
進捗状況に係る自己評価(進捗 が遅れている場合の要因分析)	新型コロナウイルス感染症の影響により、例年よりも低い実績となった。 令和3年度からは、「新しい生活様式」の定着に向けた「ミライのフツーをつくらうプロジェクト」として、とよたエコフルタウンでのリモートガイドツアー等を開始することができた。 引き続き、感染症対策を実施しながら、とよたエコフルタウンを中心として、市民のライフスタイル転換に資する各種取組により市民一人一人の先進技術への関心を高めていく。また、本市としてMaaSを推進することで、交通等の利便性を高め、住みよさの向上を図る。						
外部要因等特記事項							

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■規制の特例措置等を活用した事業の実績及び評価
 規制の特例措置を活用した事業

特定(国際戦略/地域活性化)事業の名称(事業の詳細は本文4①を参照)	関連する数値目標	規制所管府省による評価
		規制所管府省名: <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められる <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められない ⇒ <input type="checkbox"/> 要件の見直しの必要性あり <input type="checkbox"/> その他 <特記事項>

※関連する数値目標の欄には、別紙1の評価指標と数値目標の番号を記載してください。

国との協議の結果、現時点で実現可能なことが明らかになった措置による事業(本文4②に記載したものを除く。)

現時点で実現可能なことが明らかになった措置による事業の名称	関連する数値目標	評価対象年度における活用の有無	備考(活用状況等)

国との協議の結果、全国展開された措置を活用した事業(本文4②に記載したものを除く。)

全国展開された事業の名称	関連する数値目標	評価対象年度における活用の有無	備考(活用状況等)

■地域独自の取組の状況及び自己評価（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

財政・税制・金融上の支援措置

財政支援措置の状況				
事業名	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名
豊田市エコファミリー支援補助金	スマートハウスを構成する、創エネルギー機器（住宅用太陽光発電システム、家庭用燃料電池システム）、省エネルギー機器（家庭用エネルギー管理システム）、蓄エネルギー機器（家庭用リチウムイオン蓄電池システム、電気自動車等充電設備）の導入、高断熱窓の設置及び次世代自動車の購入に要する費用の一部を補助することにより、エネルギーの地産地消及び市民の暮らしの低炭素化を推進する。	(A-1-1) (A-1-2)	令和2年度には新たに約300世帯がエコファミリーに登録。	豊田市
企業立地推奨条例等	企業が市内に工場や研究所等を建設する場合に、奨励金を交付して企業立地を支援する。	(A-1-2) (A-2-1) (B-1-1)	(累計) 27件	豊田市
税制支援措置の状況				
事業名	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名
スマートハウス減税		(A-1-1)	278件	豊田市
再生可能エネルギー発電設備減税	スマートハウスに係る家屋の固定資産税等を減税することによって、再生可能エネルギーの地産地消と暮らしの低炭素化を促進する。	(A-1-1)	21件	豊田市
電気軽自動車・小型電気自動車減税	電気を動力源とする軽自動車等に係る軽自動車税を減免することで、移動の低炭素化を促進する。	(A-2-1)	1件	豊田市
金融支援措置の状況				
事業名	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名

規制緩和・強化等

規制緩和				
取組	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名
規制強化				
取組	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名
その他				
取組	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名

特区の掲げる目標の達成に寄与したその他の事業

事業名	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名

体制強化、関連する民間の取組等

体制強化	
民間の取組等	